

身近な話題をお寄せください。

カメラ・アイ

(秘書広報課・内線186)



聞いてください、仲間のハーモニー

土岐津中学校の音楽祭が文化プラザで行われ、クラスや学年ごとに日ごろの練習の成果を発表しました。(2月8日)

競え！暮らしの技

生活技能コンクールで、子どもたちはくぎ打ちや缶詰のふた開け、リンゴの皮むきなどに奮闘しました。(2月2日)



どうやって届くの？私の手紙
土岐津小2年生の児童94人が、郵便局の仕事について、体験を交えて学びました。
(2月10日)



収穫が楽しみ…
ネイチャーセンターで行われたシタケの菌打ちに、40組60人の家族連れなどが参加しました。(2月9日)



お茶の心は、礼・美・楽

泉中で開かれた抹茶教室で、2年生の生徒60人がお茶の作法を学びました。(2月17日)

怖い地震に備えを万全

どんぶり会館やセラテクノ土岐で防災訓練が行われ、施設職員や消防職員など約80人が参加しました。(2月13日)





市史だよりふるさと歴史ウォーク 34

歴史・文化・経済の道

御佐野街道

泉町大富区内

泉町大富から可児郡御嵩に抜ける古い街道の一つに「御佐野街道」があります。江戸時代の土岐郡西部の百姓は、その年貢米を可児郡の木曾川べりの新村港まで運ばなくてはなりませんでした（これを津出しといいます）。

土岐郡からこの新村港へ行くには、久尻村・大富村の北端に横たわる丘陵を越えなくてはなりませんでした。いくつかのコースがありましたが、高山村から土岐川を渡り、大富村の白山神社西を通り、伊野川に沿って北上し、塞神峠を越して可児郡へ出るこのコースが最も近道でした。

明治になると可児郡御嵩町には、旧制東濃中学校、御嵩区裁判所などが設置され、さらに明治三十五年十二月の土岐津駅開業に伴って、その利用度はますます高まっていきました。そして現・国道二十一号線や、その前身のだるま道が改修されるまで、土岐郡と可児郡を結ぶ重要な道路として、陶磁器や生活必需品などの運搬に使用されました。

この街道の泉側には、二体の石仏が確認されています。一体は山すその登り口

「斧研池」西（現在は東の大富中窯の庚申堂裏に移動）にあった馬頭観音で、享和二年（一八〇二）の銘があります。もう一体は、大富山頂上の「塞神峠」に立っていました。この石仏はかなり風化が進んでいて、馬頭観音が地藏菩薩かの判別も、建立年月日や建立者などの判読もできませんが、通行の役馬の安全と大富村へのもるもの厄業払いを願って建立されたものと考えられます。

現在、山稜に美濃焼卸商業団地から泉が丘団地北までの道路が新設されたため、道路工事事務所跡地の空き地の西側に移動されています。



クローズアップ

苦境を乗り越え 県中学校新人戦大会に出場

濃南中女子バレーボール部の皆さん



訪れた体育館で、バレーボールの練習をしていたのは、わずか七人。一チーム六人の競技なので、当然、試合形式の練習はできず、玉拾いをするはずの後輩もいない。

そんな苦境を乗り越え、今年一月、四十校もの参加があった県新人戦大会東濃予選で、準優勝を勝ち取り、県大会に出場したのが濃南中女子バレーボール部二年生の皆さん。

熱心に指導をしてくれるボランティアのコーチをはじめ、休日の練習では、父兄が玉拾いなどをし、OGやママさんバレーの皆さんも大会前には、練習試合の相手をしてくれるなど、地域の暖かい支えにも後押しされた結果だった。

大会前の選手の骨折や、大会中のねんざなど、けがに見舞われるトラブルもあったが、コーチいわく「飛び抜けた選手がいるわけではない」このチームは、信条のスピードとチームワークで、目標のベスト4を上回る成績を収めた。

礼儀正しく、素直な人柄が印象的なキャプテンの山本恵里香さんは、今後の目標について「もう一度県大会に出て、一勝したい」と明るい表情で語ってくれた。